



国民年金の保険料は納めましたか？

今年も残りわずかです。新しい年に向けこの1年間のけじめをつける時期になりました。

皆さん、国民年金の保険料は納めましたか？年金は、自分自身だけでなく世代間の助け合いです。

未納のままですと、「老後」の年金はもちろんのこと「もしも」のときに障害基礎年金や遺族基礎年金が受けられない場合があります。このようなことがな

いように、保険料は必ず納めましょう。

一部免除を承認されている期間がある人は、免除された区分に応じて残りの一部の保険料額を納付しなければ「未納期間」となりますので、注意してください。

届出忘れや納付もれなどが不安な人、制度について知りたいことがある人は、相談または問い合わせください。

年金記録の問い合わせ先

年金記録照会専用のフリーダイヤル

「ねんきんあんしんダイヤル」

0120-65-7830

24時間、土日も対応

※携帯電話・PHSからも利用できます。

◇電話では、原則として、皆さんの基礎年金番号や生年月日をお尋ねし、後日、回答票を郵送しています。

手元に届いた回答票の問い合わせや一般の年金相談

「ねんきんダイヤル」

0570-05-1165

月～金曜日
午前8時30分～午後5時15分

※月曜日（月曜日が休日の場合は火曜日）は午後7時まで受付。

※第2土曜日は午前9時30分～午後4時まで受付。

◇IP電話・PHSからは「03-6700-1165」にお電話ください。
◇祝日、12月29日～1月3日は利用できません。

◆電話時の注意

◇「0570」の最初の「0」を省略したり、市外局番を付けて間違い電話になっているケースが発生していますので、かけ間違いに注意してください。

◇電話が繋がらない場合は、最寄りの社会保険事務所を利用してください。→熊本西社会保険事務所 ☎ 096 (353) 0141

※「ねんきんダイヤル」は、皆さんからの電話を全国の年金電話センターなどのうち、回線の空いているところにつないでいます。

※通話料金は一般の固定電話の場合、接続先にかかわらず市内通話料金で利用できます。



友好都市韓国金堤市で菊池市内中学生40人がホームステイを体験！ ～平成19年度菊池市中学生海外派遣事業～

8月2日（木）から6日（月）の5日間、友好都市の韓国金堤市で、市内中学生40人がホームステイを体験しました。参加者を代表して、菊池南中学校2年生小堀花さんの報告書の一部を紹介します。

【韓国へ行って】小堀 花

私は、韓国へ行きいろいろな文化にふれ、たくさんの人に出会うことができました。私が韓国の文化にふれて、とても興味深かったのは「食べ物」と「昔の建物」だ。

韓国の食べ物の中で私が一番気に入ったのは、石焼きピビンバだ。食の文化にふれてみて、おはしを使うところは日本と同じだが、料理や料理の量など「違うところもたくさんあるんだなあ。」と思った。

韓国の昔の建物で私が見たものは、政治の中心だったところや、お寺などだ。それらの建物はどれも同じような造りで、たくさん色が使われていた。大きな建物がたくさん続いていて、あちらこちらに目をうばわれた。日本語や英語で説明が書いてあるところもあり、韓国は歴史を大切に、それを他国の人達にも伝えていっているから、とてもすごいと思った。私も韓国の人達を見習って、日本の歴史をもっと大切にし、他国の人に伝えていきたいと思う。

一緒に行った人達とは、たくさん話したりしていつの間にか仲良くなっていった。みんなで写真を撮ったり、遊んだりとても楽しかった。五日間だけの付き合いではなく、「これから仲良くしていける」そんな友達ができたのでとても嬉しかった。

韓国の中学生とは、最初は言葉が通じず大変だったが、



中学生海外派遣事業に参加した生徒たち

韓国語のプリントを使ったりしてどうにか会話していった。ホームステイ先の人達はみんな優しく、親切で、お互いに相手の国の言葉をしゃべったり、韓国の中学生が日本語で手紙を書いてくれたりと、とても親しくなれた。驚きと、発見の三日間で、生活しづらかったりした時もあったが、この家にホームステイすることができて本当によかったと思った。

私は、言葉以外で自分の気持ちを表現することの難しさ、積極的に何事にも取り組んでいくことの大切さ、たくさん国の文化を知りそれを受け入れ、日本の文化も伝えていくことの大切さなど、学校の授業では学べないようなことをたくさん学ぶことができた。そして、私の目標でもあった友達をつくるということも達成できた。今回学んだことを活かし、これからの生活に役立てていきたい。

旭志中学校と菊池北中学校で乳児ふれあい学習

旭志中学校の2年生49人と、菊池北中学校の2年生91人が、2回にわたってあった乳児とのふれあい学習で、命の大切さなどを学びました。

1回目は、開業助産師の小野田由紀さんを招いて、「皆さんは3億分の1の確率で生まれた命です。自分を大事にするのはもちろん、周りの人も大事にして命をつなぎましょう」という講話があり、生徒は感動的な話を熱心に聴きました。その後、シミュレーターを使った妊婦体験などがあり、妊婦さん（自分たちを産んでくれたお母さん）の大変さも体験しました。

2回目は、生後2カ月～11カ月の赤ちゃんとお母さん計27組に協力をいただき、乳児とのふれあいを体験しました。

育児真っ最中のお母さんに、育児に関する質問をしたり、体重測定で衣服の着脱や赤ちゃんを抱っこしたりしました。実際に赤ちゃんにふれる中で、生徒は自分も大事にされてきたということを実感し、親となることの責任や育てる喜び、乳児のかわいらしさや力強さ、いのちの尊さなどを学んでいました。

この事業は、思春期の子どもたちが乳児とふれあうことで、命の尊さや子育ての大切さ、親としての責任や喜びについて考える機会とすることを目的に、家庭科や総合学習の時間を使って、市と中学校の共催で毎年実施されています。



お産について人形を使って説明する小野田さん



シミュレーターを使って妊婦体験する生徒たち



赤ちゃんに触れ、かわいさを実感する生徒たち